

社会2年「富国強兵」 O.A教諭

不平等条約である日米修好通商条約の改正に向け、明治新政府が行った諸改革は、日本が歩んだ近現代の歴史に大きな影響を与えた。今後学んでいく戦争の歴史（世界で唯一の被爆国）を考えたとき、「富国強兵」は歴史上のターニングポイントの一つと言える。まさに、歴史を学ぶ意義が高まる単元である。

【授業の流れ】

※富国強兵の政策の中心となったのが、「殖産興業」「徴兵令」「地租改正」。

(1) 殖産興業

世界遺産に登録された富岡製糸場

○江戸時代の工場制手工業との違いに着目する。

- ・働いている人が多い。
- ・服装が異なる。
- ・建物がレンガ造り。
- ・機械が使われている。
- ・外国人の指導者がいる。



2枚の絵を丁寧に比較
拡大できるため、詳細まで
見ることができる

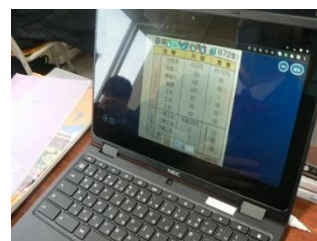
○外国人は何をしているのか考える。

- ・作業をしているのではなく、作業を見守っている。
- ・監視、指導している。

○外国人の給料と、女工の給料を比較する。

○なぜ、こんなにも高い給料を支払ってまで、
外国人を雇ったのか予想する。(ロイロノート)

- ・鎖国をしていたため、遅れていた。
- ・外国との遅れを取り戻すため。
- ・外国の技術を取り入れるため。
- ・不平等条約である日米修好通商条約を撤廃するため。



テンポよく授業が進んでいく

(2) 徴兵令 軍隊の資格

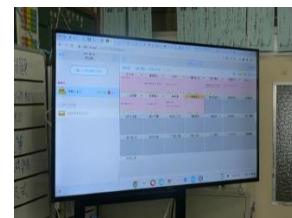
江戸時代の武士の人口割合と、明治時代の軍隊の人口割合

(3) 地租改正

学習課題

政府が地租改正を実施したねらいは何だろうか。

(ロイロノートを使用)



本校の今年度の重点目標

【授業改善】「自己との対話から学びを深め、他者を意識した表現を工夫する生徒の育成」

- ・毎時間の授業と単元全体の見直しを持ち、自らの学びを振り返る自己調整能力を育成する。
- ・話し合い活動などを通して、自分の考えを表現しながら、他者と共に学ぶ姿勢を育成する。
- ・実社会や実生活と結び付いた学習を展開し、各教科の見方や考え方を身に付けさせる。